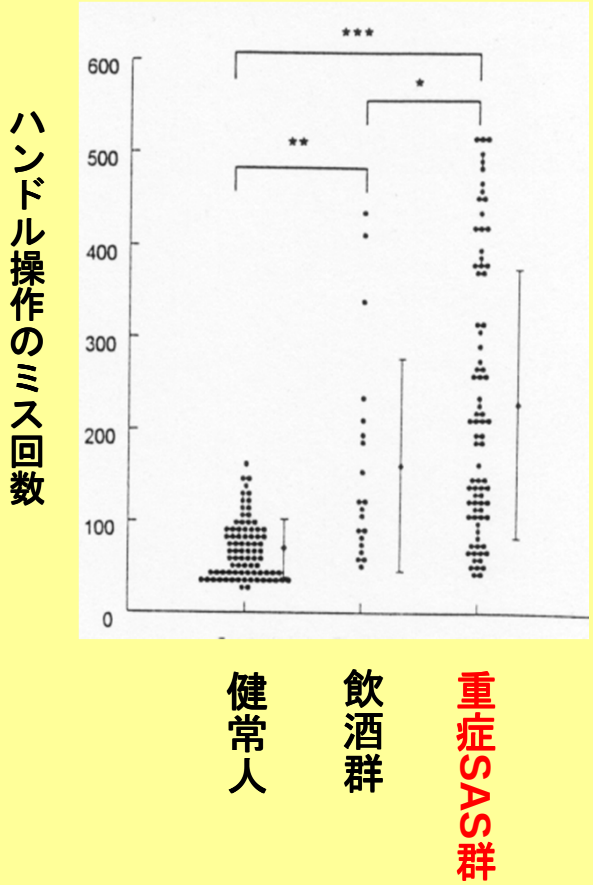
第9号/2013年7月13日版

【睡眠時無呼吸外来】

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞運動能力の比較∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞



←健常者、飲酒群と比較して、重症のSAS群では
ハンドル操作のミスが多い

飲酒運転よりも重症SASの人の運転の方が危ない

国土交通省の取り組み

平成15年2月26日、山陽新幹線の運転士が居眠り状態となり、自動運転制御装置により停止するという事件が発生しましたが、その後の検査で当該運転士は「睡眠時無呼吸症候群」であると診断され、陸海空の交通機関に共通する問題であることが明らかになりました。このため、自動車交通局においては、同年3月18日、事業者・運転者向けの平易なマニュアル「「睡眠時無呼吸症候群」に注意しましょう！」を定め、同マニュアルを活用して　SASの周知に努め、早期発見・早期治療を促しています。平成19年6月1日、当該マニュアルを一部改訂して「「睡眠時無呼吸症候群」に注意しましょう！」を定めました。

全日本トラック協会の取り組み

SAS対策はトラック運送業界の重要課題として、SASの全国的な対策を推進するために、平成17年7月より、「SASのスクリーニング検査費用の一部」を全日本トラック協会が助成する制度をはじめています。

安芸市民病院　呼吸器科医師　　香河　和義